arcserve®

Arcserve Unified Data Protection 導入事例

バックアップ高速化、柔軟なデータ保護体制の確立で災害にも強い旭化成ホームズへ

全国に広がるファイルサーバ、その 100TB に迫るデータの保護運用を標準化
バックアップ時間が 1/2 以下に短縮、次は遠隔地バックアップを構想

ユーザプロフィール

業　種：住宅、マンション、リフォーム
会社名：旭化成ホームズ株式会社

AsahiKASEI

課題

「ヘーベルハウス」などで知られる大手住宅メーカー　旭化成ホームズでは、全国に支店や住宅展示会場を展開している。ビジネスの成長とともにデータ容量が増し、全国合計で100TBに迫る勢いで増加していた。そのため、テープによるフルバックアップが規定時間内で終わらないというリスクが生じつつあった。その保護を強化すべく、バックアップ運用の改善を構想することになった。

経緯

Windows Server 2003のリプレースを機に、バックアップ運用の見直しを行うプロジェクトを開始。バックアップ製品の選定要件は、バックアップスピードの向上、これまでのテープバックアップ運用が継続可能であること、将来的に災害対策が対応可能であることだ。この観点から、複数の製品を検証した結果、新製品Arcserve Unified Data Protectionを選択した。

導入

性能要件のみならず、製品購入後の管理面にも重要な要望があった。それはハードウェアとライフサイクルを同一にすること。両者の資産償却期間が一致していない場合、資産管理やコスト管理が煩雑になってしまう。Arcserve UDPは、期間をそろえることができ、さらに新規バージョンがリリースされた際に有効な保守契約を保有していれば追加コストなしでアップグレードできる。柔軟性の高いライセンス体系は同社に歓迎された。

効果

新OSファイルサーバ利用がスタート。バックアップ運用方法そのものは従来どおりながら、テープによるフルバックアップ時間は約1/2以下に短縮された。データを損失するリスクが解消された。
次なるテーマは、遠隔地へデータを転送する災害対策の強化。これによってデータ資産を速やかにリカバリできる盤石な体制が完成する。

課題

100TB に迫る勢いで増加するデータ容量、終わらないバックアップに大きな懸念

戸建住宅「ヘーベルハウス」や賃貸住宅「ヘーベルメゾン」といったブランドで知られる大手住宅メーカーといえば、旭化成ホームズ株式会社である。1972 年に旭化成グループ企業として誕生して以来、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。」というグループ理念の下、日本の都市における安全で快適な住まいのあり方を追求し続けてきた。現在は、新築請負事業に加え、賃貸管理・売買仲介、マンション開発などの不動産関連事業、リフォーム事業など、提供した建物を契機に顧客に末永く寄り添える体制を整えた。顧客が長く快適に安心して住まうことができる住宅の提供を経営理念としている。

同社が管理しているのは住宅メーカー特有の住宅の写真データ、CAD データをはじめ、日々の業務データなど重要な企業資産だ。比較的容量の小さいデータが数多く存在するのが特徴で、年々そのボリュームは増加の一途をたどっていた。全国総計では 100TB に迫る勢いになっていた。それらのデータはサーバディスクに日次に差分バックアップを取得したあと、週次でテープにフルバックアップを取っていたのだが、そのテープバックアップが規定の時間内に終わらなくなってきていた。このままデータが増え続け、万が一、バックアップが完了する前に障害や災害が発生してしまった場合、貴重なデータを失うことになる。同社はバックアップ運用を全社的に改善し、災害対策を含めて強化する必要性を感じていた。

経緯

バックアップ速度の向上とデータ保護の柔軟性を評価して Arcserve UDP を選択

機会は 2012 年にやってきた。サーバ OS Microsoft Windows Server 2003 のサポート終了が数年後に迫り、Windows Server 2008 への移行プロジェクトが立ち上がったのだ。情報システム部では、その一環でバックアップツールもリプレースして運用改善を実現することとした。そこで目指したのは、バックアップ速度の向上だ。情報システム部 課長 明野誠一氏は、次のように語る。

「IT リテラシーの高いスタッフが操作できるのは当然です。今までは幸いにも大きな障害は起きていませんが、万が一のとき、操作が難しくてすぐにデータを戻せなくてはバックアップをしている意味がありません」

2013 年夏ごろから複数のバックアップソフトウェアとハードウェアアプライアンス製品の比較検証を重ね、テープバックアップ運用の実績の高さと操作性から Arcserve Backup が有力候補となった。そこへ、2014 年春に発売開始となる新製品 Arcserve Unified Data Protection（以下、Arcserve UDP）の情報が入り、明野氏は早速検証を行った。Arcserve UDP はイメージバックアップ製品 Arcserve D2D（2014 年 12 月販売終了）をベースとし、Edition によって Arcserve Backup、Arcserve Replication/High Availability の機能も利用できるバックアップソフトウェアだ。特に同氏が重視したのはレプリケーション機能だった。現在はテープに二次バックアップを行っているが、将来的には一次バックアップデータを遠隔地にレプリケーションして災害対策を行いたいと考えていた。このきっかけは、Arcserve Replication でデータセンターから全国 47 都道府県にデータを転送する導入事例を目にしたことだった。

Arcserve UDP であれば、懸案のバックアップ速度の向上が実現できる上に、Premium Edition を選択することで現在必要なテープバックアップを行える。さらに、将来的に実施したいデータレプリケーションへもスムーズに拡張して災害対策の強化が図れる。明野氏はそう判断した。

「Arcserve 製品は以前からずっと利用していて、インターフェースもわかりやすく、使い慣れていました。また、性能とい

う点でも信頼感があったので、安心して Arcserve UDP を選ぶことができました」（明野氏）

もう一つ、同社の背中を押した要因がある。それは、Arcserve UDP がバックアップ対象にしかライセンスがかからないというコンセプトだということだ。同社が災害対策を実施し、遠隔地にバックアップデータを転送するだけであれば追加コストは発生しない。今後システム構成を柔軟に検討していきたい同社にとって、これは大きなメリットだった。

導入

ハードウェアとライフサイクルを合わせたシンプルな包括ライセンス

Arcserve は、インストールはもちろんバックアップ設定が非常に簡単なことが大きな特長のソフトウェアである。ウィザード形式（対話形式）で対象データ（ソース）をいつ（スケジュール）どこに（ディスティネーション）バックアップするかを定めるだけで、日次、週次のバックアップ設定が完了する。数台のサーバであれば、設定にある程度の時間がかかっても気にならない。しかし、より多くのリプレースとなると、1 台あたりの設定時間がわずかでも簡略化できれば、全体で非常に大きな作業時間削減につながる。Arcserve UDP はまさにこれを実現した。

また、旭化成ホームズでは、バックアップ運用の改善に加えて、バックアップソフトウェアが新しいハードウェアとライフサイクルを同一にしたかった。さらに、その利用期間中にソフトウェアに追加費用が発生しないことも求めていた。両者の資産償却期間が一致していない場合、バラバラとメンテナンス費用が生じ、資産管理やコスト管理が煩雑になってしまうが、Arcserve UDP はこの要望をかなえた。また、この製品には、ライセンス権利に加えて、年間サポート、そして有効なサポート期間中に新バージョンがリリースされた場合に無償でアップグレードできる権利が含まれている。年間サポートは複数年を選択できるため、あらかじめハードウェアにあわせて必要年数分を取得できる。これにより、すべてのコストは次のサーバリプレースのタイミングでしか発生しないというわけだ。

効果

フルバックアップ時間が 1/2 以下に短縮、データ損失リスクを解消

2015 年 3 月、バックアップ運用方法そのものは従来どおりだが、そのバックアップ時間は大きく削減された。データ量の多いサーバであっても、なんと週次のテープバックアップによるフルバックアップが 4 時間に収まるようになったのである。従来、夜通しかかっても終わらなかったことを考えれば、1/2 以下に短縮されたということになる。日次でのサーバディスクへの差分バックアップも、数十分から 1 時間で完了するようになった。バックアップが終わらずデータ損失するリスクが解消された。

また、Arcserve UDP の導入により思わぬ効果も生まれている。旭化成ホームズでは企業の成長や市場の変化に合わせて柔軟に組織変更を行っているが、そのタイミングでファイルサーバのデータも新しい組織の体系に合わせて分離合体させる。これまではそれにテープのリカバリデータを利用していたため、移行にまるまる 2 日間かかることもあった。現在は、Arcserve UDP で取得したイメージによるリカバリデータも利用できるため、1 日で完了するようになったという。情報システム部では組織変更のたびに短期間でデータ移行を完了させる大きなプレッシャーを感じていたそうだが、高速かつ確実なデータの分離合体が可能になり社内から歓迎されている。リカバリデータがこのように有効活用できることは、有事の際もデータをすばやく復旧できることを意味している。

提供する住宅と同様に、災害に強い事業継続体制の確立へ

次に目指すのは、もちろん災害対策強化だ。現在、バックアップデータをネットワーク経由で遠隔地へ転送するべく、バックアップデータの遠隔転送機能と、データをリアルタイムにレプリケーションする Arcserve Replication 機能を検証している。局地的に大きな災害が生じても、CAD データや画像・写真データ、そして顧客情報などかけがえのないデータ資産を今まで以上に速やかにリカバリできるようになる。また、テープバックアップへの依存度も下がることから、バックアップ運用コストの削減にもつながると明野氏は期待を寄せている。

この構想の背景には、同社の企業理念である「住まいを通じて“安心で豊かな暮らし”を実現」がある。IT システムの重要度が増す今日では、この理念を守るにはデータ管理が欠かせない。情報システム部は、今後もシステムマネジメントの側面から顧客の“安心”をしっかりと支えていく。

旭化成ホームズ様　バックアップ運用の課題と Arcserve UDP 導入効果

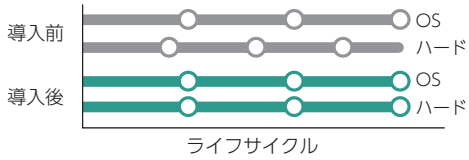
課　題

- 容量増加に伴い、バックアップ時間が長期化
- バックアップソフトウェアとハードウェアのライフサイクルが異なり、資産管理やコスト管理の煩雑化
- 将来的な災害対策の強化

導入効果

- フルバックアップ時間が 1/2 以下に短縮

- 資産償却期間をそろえライフサイクルを同一化



- 従来のテープバックアップ運用を継続しつつ、遠隔地へのデータレプリケーションも実施が可能

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright ©2015 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト　0120-410-116

※記載事項は変更になる場合がございます　2015年8月版

詳しくはWebで！　arcserve.com/jp　検索

Printed in JAPAN